

ワニのガルド

わたしのガルドはお母さん

3年 K・Eさん

「ガルドがいたらいいな。」

この本を読んで、わたしにもガルドがいたら心強いなと感じた。

わたしにも仲よしの友だちがいる。でも、仲よしの友だちがいても、ヒナちゃんと同じようにさびしい気持ちには、よきよきをやってくる。仲よしの友だちとちょっと意見が合わなかった時、わたしはいつも、自分の意見を押し通す事ができない。相手にゆずってしまおう方が平和だからだ。けれど、大好きな友だちでも、

「たまにはわたしの意見もきいてほしいな。」

と、友だちを少しきらいになる。でも本当にきらいなわけではなく、はっきり言えない自分へのいらだちもあるのかもしれない。そして心が少し苦しく、さびしくなる。

そんな時、わたしにとつてのガルドはわたしのお母さんだと本を読んで気付いた。お母さんに落ちこんでいる事や、なやんでいる事を話すと、

「大丈夫よ。」

と、大きな笑い声と笑顔で不安をふきとばしてくれる。お母さんのそんざいがあるからこそ、うれしい時も、ぐっどがなばれるんだと思う。

「愛情いっぱい育てた子は強いんだよ。」

この言葉はわたしのおばあちゃんがいつも言っている言葉だ。だれかに大切に思われ、生きていてほしいと言ってくれる人が一人でもいれば、人は強くなれるんだと思う。そして強い人は、やさしさも持っている。だれかに大切にされている人はほかの人も大切にできるからだ。

ガルドが見えなくなる時、わたしにとつてはお母さんをたよらなくても問題を自分でかい決できるようになる時がくるのはちょっとさびしいけれど、きっとその時がきて、

「わたしには、わたしを思ってくれる人がいる。」

と、思ってた色んな事を乗りこえていきたい。そして、わたしもだれかにとつてのガルドになれるよう、まわりの人を大切にし、思いやりを持って生きていきたい。